

EFSA はクローン動物に関する最終の科学的意見を採択【仮訳】

EFSA は、本日、クローン動物の食品安全、動物の健康と福祉、環境に対する影響について最終の科学的意見を公表した。EFSA の意見書は、2007年2月に欧州委員会から本件に関して助言を要請され、本年初めの意見書（案）に対するパブリックコメントを経たものである。^[1]

EFSA の科学委員会^[2]の議長である Vittorio Silano 教授は、以下のように述べている。

「従来の繁殖方法によるものに比べて、代理母獣とクローンで動物の健康と福祉の重要な問題がより高頻度かつ重度に生じ得ることは明らかである。牛及び豚については、食品安全上の懸念となる可能性はほとんどない。クローン又はその後代に由来する食品と従来の繁殖方法による動物に由来する食品の間に、食品としての安全性に関して差異を示唆するような明確な証拠はなかった。しかし、証拠の基盤は、増えつつあり、また、一貫した結果を示しているものの、まだ小さいことを認めなければならない。このことは、この仕事における課題のひとつであった。」

意見書の主要な結論には以下がある：

- 利用可能な研究は限られ、調査されたサンプル数は少なく、また、一般に、本意見書に関連する事項に十分に取り組めるような統一的なアプローチがないため、リスク評価に不確実性が生じた。本意見書では十分なデータが利用可能である豚と牛のみを対象にした。
- クローン動物の有意な割合で、主に牛の若齢期や豚の周産期において、動物の健康及び福祉に悪影響がみられており、しばしば重度で致命的な結果となっていた。
- 体細胞核移植（クローン動物に最もよく用いられる技術）は、健康な牛や豚、健康な後代を産出してきた。それらは、生理的特徴、行動、臨床的な状態などのパラメータにおいて、従来の動物と同様である。
- クローン及びその後代に由来する肉や乳については、食品としての安全性に関して、従来の繁殖方法による動物に由来するものと差異があることは示唆されない。ただし、この結論は、その肉や乳が関連する食品安全の規制・管理の下にある健康な動物に由来したものであるとの前提に基づく。
- 環境への影響は予見されないが、入手可能なデータは限定的である。

Silano 教授は、以下のように付け加えた。

「EFSA は、常に単純な回答や保証を提供できるわけではない。複雑で進化している科学技術については、データが限られており、そうしたすっきりした解答は得られない。我々の助言は科学により導かれたものであり、クローン動物並びにクローン動物及びその後代に由来する製品に関する EU の将来的な措置の検討に役立つであろう。」

意見書における勧告は、以下を含む：

- クローン動物の健康と福祉について、生産期間及び生涯にわたりモニタリングすべきである。
- 牛と豚以外の食用動物が SCNT で産出された際には、関連データが入手でき次第、リスク評価を行うべきである。
- 妊娠中や出生後の期間のクローン動物の病変や死亡率の原因、また、成長するとその頻度が低くなることについて、さらに調査を行う。
- 従来 of 畜産条件で飼養した場合のクローン動物及びその後代の疾病・感染症に対する免疫力や感受性について、さらに調査を行う。
- 通常の畜産条件における健康なクローン動物について、行動研究を含め、動物の福祉の研究を実施する。

以下も参照されたい：：

- 体細胞核移植 (SCNT) によるクローニングで産出された動物及びその後代並びにそれらに由来する製品の食品安全、動物の健康と福祉、環境に対する影響に関する意見
- パブリックコメントで受領したコメント
- パブリックコメント結果報告
- EGE ウェブサイト及び食料供給のための動物クローニングの倫理的側面に関する意見書
- よくある質問 (FAQs) を含む動物クローニングの主要トピックのセクション

-
- [1] 欧州科学・新技術倫理グループ (EGE) は本件に関する倫理的問題についての意見書を作成した。
 - [2] EFSA の科学委員会 (SC) は、EFSA の権限の範囲内にある分野全てにわたる科学パネルの座長 10 人で構成され、また、独立した科学者 6 人も含まれる。任命は、公募及び厳格な選考手続きに従って、科学的卓越性の実績に基づき行われる。本件は、多くのパネルのそれぞれ専門分野に関連した多面的な問題であるため、SC がこの仕事を主導してきた。